

検査の流れ

※当日検査前に6時間絶食



血糖値を測定し、
薬剤の注射を行います。

薬剤が全身に回るまで
約90分安静にさせていただきます。



PET-CTカメラにて約15分間撮影を行います。



再度安静(必要に応じて再度撮影)



検査終了

PET-CTの目的

◆検査診断(人間ドック)

◆がん等 悪性腫瘍

- ・ 病 期 診 断
- ・ 転 移 検 索
- ・ 再 発 診 断
- ・ 治療の効果判定
(抗がん剤など)

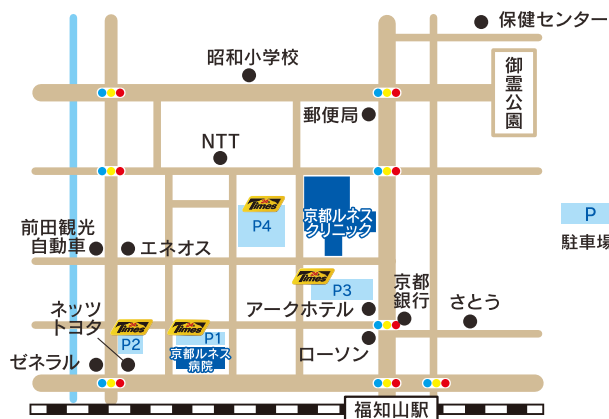


お問い合わせ先

《 PET総合画像診断センター 》

TEL.0773-23-6650

FAX.0773-23-6653



Kyoto Renaiss Clinic

PET総合画像 診断センター



PET-CT検査とは



医療法人 福富士会

京都ルネスクリニック

PET-CTとは

PETはPositron Emission Tomography(陽電子放出断層装置)の略です。

細胞の(糖代謝)活動状況を画像で見ることができ、がんなどの病気の診断に有用な検査です。

さらに形態を鮮明に写しだすことができる**CT**と画像を合わせることで場所を細かく特定した細胞の活動を知ることができます。この二つの良い所を補い合う装置が**PET-CT**です。



原 理

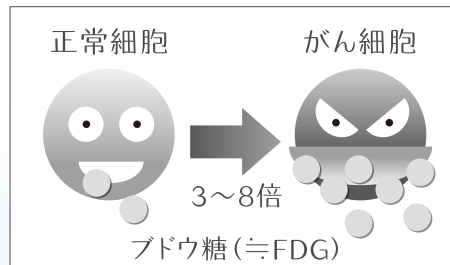
PETとは、人間のエネルギーである糖の代謝を利用して「がん」を早期に発見する検査です。

「がん」の細胞は悪性度が高いほど、細胞は盛んに増殖するため正常細胞の

3～8倍のブドウ糖を取り込みます。

PET検査ではブドウ糖に良く似た検査薬を使用します。

※PET検査にも弱点があります。膀胱、腎臓等の尿路系のがんや早期胃がん等は検出しにくい場合があります。その他の検査と組み合わせることで精度が高められます。



検査前には

検査の当日は食事など摂取による糖分は検査の精度を下げる可能性があります。

当日の食事制限にご注意ください。

また、血糖値を下げる薬を飲用されている方は、主治医にご相談ください。

検査後には

使用するFDGという薬剤は120分程度で減衰します。普段通りで結構です。

被ばくは

人体の影響は心配ありません。PET検査わずかですが被ばくがあります。被ばくは胃のバリウム検査とほぼ同じ程度で、自然界から受ける年間放射線量と同じ位の量です。



開放感があるオープンガントリー方式